

2016 年 9 月 30 日

博報財団 第 10 回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	NGUYEN Bich Ha Thi (グエン ビック・ハー ティ)
在住国名	ベトナム
所属・役職	貿易大学 日本語学部 言語学科長
招聘回(招聘研究期間)	第 10 回 (2016 年 3 月 1 ~ 2016 年 8 月 31 日)
受入機関	国立国語研究所
招聘研究テーマ	論文形式文章作成のための日本語教育 - ベトナム人の文化的特性による語彙の選択と構文 -
研究目的	ベトナムでは、日本語教育が拡大するに伴って、大学学部、および、大学院修士課程において日本語で論文を書くことが多くなってきた。現在のベトナム人学生の論文は、①話し言葉的な語・表現が混じることにより、時に尊大な印象を与え、時に幼稚になっている、②一文が長すぎて冗長になるなど、論理的欠如がみられるという問題もある。 本研究では上記の問題二点について調査分析をし、改善策を探る。
<p>研究概要:</p> <p>科研費基盤(C)「書き言葉的」と「話し言葉的」という文体差のある語の分析(2014 - 2016 年, 代表: 柏野和佳子, 26370554)に収集されている、論文作成時に注意すべき話し言葉的な語・表現リストには、接続表現、副詞、文末表現が多くある。本研究は、このリストを基に、下記の調査・分析を行った。</p> <p>①話し言葉的な語・表現の混在の調査分析 ベトナム人学生の卒業論文及び修士論文(全 16 本)に現れる話し言葉的な「接続表現・副詞・文末表現」を調査した。卒業論文は 10 本で、貿易大学の学生が 2010 年から 2015 年までの 5 年間に書いたものからそれぞれ 2 本ずつ選んだ。修士論文は 6 本で、ハノイ国家大学外国語大学とハノイ大学の大学院生による 2013 年から 2015 年までの 3 年間分からそれぞれ 3 本ずつ選んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し言葉的な接続表現の収集: 534 例 ・ 話し言葉的な副詞の収集: 589 例 ・ 評論的文末表現の収集: 480 例 <p>②対照表の作成 これらの論文に現れた話し言葉的な語・表現とそれに対応する書き言葉的な語・表現との対照表を作成した。</p> <p>③論理的な記述のための分析 「文末表現」については評論的か否かの観点により分析した。また、一文が長過ぎるものを分析した。中には一文四義のものがあることがわかった。それらを一文一義で書くよう指導する必要性を確認した。</p> <p>④指導案作成のための検討 話し言葉的な語・表現の使用が学生の知識不足によるものか、ベトナム人特有の文化的背景によるものかを考察した。</p> <p>上記の 4 つのを行った結果、下記のことが分かった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 話し言葉的な語・表現の混在、論理的思考の欠如、一文の長さ、などベトナム人の卒業論文、修士論文には多くの問題があること。 2. 論文形式文章における話し言葉的な語・表現の使用をもたらす原因には、学生の知識不足、ベトナム人特有の文化的背景によるものがあること。 <p>展望:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文、修士論文作成に際し、話し言葉と言い換えるべき書き言葉の対照表をベトナムの日本語教育機関に配布する。 2. 日本語専攻コースを持つベトナムの大学に、卒業論文、修士論文に現れる話し言葉的な語の使用調査を依頼して、その結果をまとめ、使用例をまとめる。 3. 最終的に、話し言葉と書き言葉だけでなく、論理的な記述・一文一義などに留意した卒業論文、修士論文作成のための参考資料をまとめる。 4. これは大学生や大学院生が日本語の論文を執筆する際の指導方法の指針となり、教員の育成・指導にも使用できる。 	